

各位

全 4 ページ

登録速報(2025-179)

2025年10月29日

クミアイ化学工業株式会社

企画普及部普及課

登 録 速 報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：2025年10月29日

ブタクロールの再評価が終了になりました。

記

1. 農薬の登録番号、種類及び名称

種 類： ブタクロール・ペントキサゾン乳剤

名 称： クミアイサキドリEW

登録番号： 第20822号

2. 農薬の物理的・化学的性状

類白色乳濁液体

3. 農薬の有効成分の種類及び含有濃度

2-クロロ-2',6'-ジエチル-N-(ブトキシメチル)アセトアニリド … 12.0 %

3-(4-クロロ-5-シクロペンチルオキシ-2-フルオロフェニル)

-5-イソプロピリデン-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン … 4.0 %

4. 農薬のその他の成分の種類及び含有濃度（15 に掲げる事項を除く。）

水、有機溶剤、界面活性剤等 84.0 %

5. 農薬の適用病害虫の範囲、使用方法及び使用期限

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 及びマツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ クログワイ コウキヤガラ	植代後～移植前 7 日 または 移植直後～ノビエ 1 葉期 ただし、移植後 30 日まで	500mL/10a	1 回	原液湛水散布
		移植時			田植同時散布機で施用
		植代時 (移植 7 日前まで)			植代時に原液のまま 散布し混和する
直播水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ	湛水直播の代かき時 (は種 7 日前まで)	300mL/10a		代かき時に原液の まま散布し混和する
		湛水直播の代かき後 ～は種前 7 日		原液湛水散布	

ブタクロールを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

使用期限：5 年 6 箇月

6. 農薬の使用上の注意事項（8に掲げる事項を除く。）

- （1）使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- （2）使用の直前に容器をよく振ることを。
- （3）本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの1葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は、生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリは発生始期まで、ヘラオモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生前が本剤の散布適期である。
- （4）クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないで、必要に応じて有効な後処理剤との組合せで使用する。
- （5）苗の植え付けが均一になるように、整地、代かきはていねいにおこない、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除く。また、未熟有機物を施用した場合は特にていねいにおこなう。
- （6）散布に当っては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるよう散布し、少なくとも4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないよう注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
- （7）苗に付着すると軽微な薬害を生じることがあるので、本剤を移植後に散布する場合は水稻になるべくかからないようにすること。
- （8）梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下するおそれがあるので使用はさける。
- （9）苗が水没するような深水状態では、葉鞘部に軽い褐変症状が出るおそれがあるので水管理に注意すること。
- （10）散布数日以内の梅雨明けなどによる異常高温では、初期生育の抑制が生じるおそれがあるので使用しない。
- （11）以下の水田では初期生育の抑制を生じるおそれがあるので使用をさける。
 - 1）砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm／日以上）
 - 2）軟弱徒長苗を移植した水田
 - 3）極端な浅植や深植をした水田
- （12）直播水稻に使用する場合は、出芽時に湛水条件になると薬害が生じるので、水管理に注意すること。
- （13）れんこん、くわい、せりなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- （14）本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

7. 人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法

(1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

ア 農薬使用者に係る注意事項

① 毒性情報

アレルギー性反応のおそれ。

(2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

ア 農薬使用者に係る被害防止方法

① 防護装備

[薬剤調製者]

移植水稻、直播水稻：不浸透性手袋

[散布者]

移植水稻、直播水稻：不浸透性手袋

8. 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨

(1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

(2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

(3) 散布後は水管理に注意すること。

(4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

9. 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨
通常の使用方法ではその該当がない。

10. 農薬の貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

以上